

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年8月19日(2010.8.19)

【公表番号】特表2009-542609(P2009-542609A)

【公表日】平成21年12月3日(2009.12.3)

【年通号数】公開・登録公報2009-048

【出願番号】特願2009-517409(P2009-517409)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	9/10	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	13/12	(2006.01)
A 6 1 P	15/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 P	21/00	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/02	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	1/02	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	9/10	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	13/12	
A 6 1 P	15/00	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	17/02	
A 6 1 P	21/00	
A 6 1 P	19/02	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/02	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
C 1 2 N	15/00	Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月25日(2010.6.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

瘢痕の予防、軽減、又は抑制のために用いられる薬剤であって、治療に効果的な量のWNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体から成る薬剤。

【請求項2】

請求項1に記載の薬剤において、

皮膚、眼、血管、末梢神経系又は中枢神経系；腱、韌帯又は筋肉；口腔、唇及び口蓋；肝臓；心臓；脳；消化組織；生殖組織；腹腔；骨盤腔及び胸腔から成る群から選択される組織における瘢痕の予防、軽減、又は抑制のために用いられる薬剤。

【請求項3】

請求項1に記載の薬剤において、

腹部、骨盤若しくは脊椎、又は腱に発生するような癒着の予防、軽減、又は抑制のために用いられる薬剤。

【請求項4】

線維性疾患の予防及び/又は治療のために用いられる薬剤であって、治療に効果的な量のWNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体から成る薬剤。

【請求項5】

請求項4に記載の薬剤において、

皮膚線維症；強皮症；進行性全身性線維症；肺線維症；筋線維症；腎臓線維症；糸球体硬化症；糸球体腎炎；子宮線維症；腎線維症；肝硬変；肝線維症；腹部、骨盤、又は脊椎にて発生するような癒着；慢性閉塞性肺疾患；心筋梗塞を引き起こすような線維症；脳卒中を引き起こすような中枢神経系線維症；アルツハイマー病又は多発性硬化症のような神経変性疾患に関連する線維症；増殖性硝子体網膜症(PVR)；再狭窄；子宮内膜症；虚血性疾患及び放射線線維症から成る群から選択される線維性疾患の予防及び/又は治療のために用いられる薬剤。

【請求項6】

請求項1～請求項5のいずれかに記載の薬剤において、

WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体を含んで成る注射剤である薬剤。

【請求項7】

請求項1～請求項6のいずれかに記載の薬剤において、

WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体を含んで成る局所用薬剤である薬剤。

【請求項8】

請求項1～請求項7のいずれかに記載の薬剤において、

配列番号No.1のWNT5Aを含んで成る薬剤。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 請求項 8 のいずれかに記載の薬剤において、組換え型の WNT5A を含んで成る薬剤。

【請求項 10】

請求項 1 ~ 請求項 9 のいずれかに記載の薬剤において、治療上の活性を有する WNT5A の断片が、WNT5A のパルミトイ化された断片を含んで成る薬剤。

【請求項 11】

請求項 1 ~ 請求項 10 のいずれかに記載の薬剤において、治療上の活性を有する WNT5A の誘導体又はその断片が、ペプトイド誘導体である薬剤。

【請求項 12】

請求項 8 に記載の薬剤において、創傷の長さ 1 cm 当たり、又は創傷若しくは線維性疾患の 1 cm² 当たり 2000 ng の WNT5A が 24 時間にわたって投与される薬剤。

【請求項 13】

請求項 1 ~ 請求項 12 のいずれかに記載の薬剤において、創傷の長さ 1 cm 当たり、又は創傷若しくは線維性疾患の 1 cm² 当たり 0.2 ng より多量の WNT5A が 24 時間にわたって投与される薬剤。

【請求項 14】

請求項 1 に記載の薬剤において、WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体から成り、創傷の長さ 1 cm 当たり 0.01 から 35 ピコモルの範囲の WNT5A、又はその断片若しくはその誘導体が投与される薬剤。

【請求項 15】

請求項 4 に記載の薬剤において、WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体から成り、線維性疾患に関連する線維症の 1 cm² 当たり 0.01 から 35 ピコモルの範囲の WNT5A、又はその断片若しくはその誘導体が投与される薬剤。

【請求項 16】

WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体から成り、瘢痕の予防、軽減、又は抑制のために使用される薬剤であって、創傷の形成前には、治療に効果的な量の WNT5A、又はその断片若しくはその誘導体が投与され、創傷の形成後には、さらに治療に効果的な量の WNT5A、又は治療に効果的なその断片若しくはその誘導体が投与される薬剤。